

Open Library Weeks: OLW 実施報告

鈴木正紀 (文教大学越谷図書館)

1. 実施に至るまでの経過

Open Library Weeks (以下、“OLW”) は、今年度 (2013年度) 初めて試みた企画である。どういものかといえば、「ある図書館がテーマを決めて、そのテーマに関心を持つ図書館員が相互に訪問する研修イベント」ということができるだろうか。具体的には例えば A という図書館が「魅力あるウェブサイトの作成」というテーマを掲げると(このとき、A 図書館を“OPEN 館”という)、それに興味・関心をもつ SALA 加盟機関の図書館員は、A 図書館が指定した日時に集まり、そのテーマについて議論したり情報交換を行う。同様に B という図書館が別のテーマで OPEN 館として参加を呼びかけ、A 図書館の場合と同様の活動を行う。そうした活動の総体が事業としての OLW となる。

このアイデアそのものは幹事会後の懇親会で出されたということが幹事会内では定説となっているが、総会で承認されたのち、幹事会で実施について検討を行い、以下のスケジュールで動いた。

2013/06/06	SALA 総会で企画を提案、承認
2013/07/29	sala_mailing で OPEN 館としての立候補及びテーマ推薦を要請
2013/10/22	城西大学が実施
2013/11/05	跡見学園女子大学が実施
2013/11/12、20	文教大学が実施 (当初、10/16 を予定していたが台風による悪天候のため、この日の実施となった)
2013/11/25	SALA 第 2 回幹事会で実施報告
2013/12/10	SALA 研修会で報告

2. 実施の概要

以下、各 OPEN 館の実施した内容について概略を紹介する。

(1) 城西大学水田記念図書館

- (ア) テーマ: オンラインを利用した広報活動ーホームページ、Twitter、SNS を中心に
- (イ) 企画概要: ホームページをはじめとした広報ツール (Twitter、SNS、ブログなど) をテーマに取り上げます。デジタルネイティブ世代の利用者 (学生) へ広報するにあたって、我々もこうしたツールについて知識を深め、柔軟に使いこなし、また持続的に管理する必要があるでしょう。/Open 日には、当館におけるホームページの管理運営、採用しているツール (Twitter、ブログ、館内デジタルサイネージ) 運用等の事例報告をした後、ディスカッションを行

います。またお時間ある方へ、館内ツアーを行います。(参加案内書より抜粋。以下同じ。)

- (ウ) 参加者数: 8 館 8 名 (および当館 7 名。計 15 名)
事前アンケート回答館: 15 館

(2) 跡見学園女子大学新座図書館

- (ア) テーマ: 図書館の学習支援体制 (ラーニングコモンズ)
- (イ) 企画概要: 跡見学園女子大学新座図書館では、小規模ながら本年 10 月よりラーニングコモンズが誕生します。まずは 1 部屋からのスタートです。その後も既存のスペースを転換利用しながら、徐々にラーニングコモンズ空間を広げていく計画です。/オープン館として、皆さまにご披露できるほど立派な施設ではありませんが、当日は、本学のラーニングコモンズ計画の進展をご紹介します。今後ラーニングコモンズへの転換が予定されているスペースを館内ツアーの中に組み込んでご案内いたします。/この機会にラーニングコモンズは学習支援においてどのような工夫ができるのか、先行して取り組んでいる図書館、また本学と同様にラーニングコモンズを模索している図書館の皆さまと考えていきたいと思っております。
- (ウ) 参加者数: 8 館 11 名 (および当館 2 名。計 13 名)

(3) 文教大学越谷図書館

- (ア) テーマ: 大学図書館の企画展示ー文教大学越谷図書館の事例ー
- (イ) 概要: 文教大学越谷図書館では、2008 年度から、学生の読書活動を推進させることを目的に、さまざまなテーマで資料の企画展示を行っています。「オリンピック」「源氏物語千年紀」「特殊コレクション」「新入生向けのお役立ち本」「卒論の書き方」などのテーマで蔵書を紹介し、利用につなげるよう PR しています。/今年の夏休み期間には、「教職員おススメの 1 冊」と題して、先生方を中心に学生におすすめしたい本を大募集したところ、最終的に教員 35 名・職員 8 名から 146 冊ものおすすめ本が集まりました。学生は、教わっている先生の顔写真とおすすめ文を発見すると、クスクス笑いながら楽しそうに借りていきます。当日は、今回の展示を実現させるまでのプロセスをご紹介します。実際に展示されているものをご覧いただけます。さらに今回の展示を今後どう生かしていくかについても展望をお伝えしたいと考えています。図書館のスタッフ

も想定外？の大好評企画、展示期間をSALAオープンライブラリーのために(!)大幅に延長していますので、ぜひともご来場の上、ご高覧ください。

- (ウ) 参加者数:11月12日14名(10機関)、11月20日:3名(1機関)

3. 評価

企画段階ではまず、OPEN館として手を挙げてくれる図書館がどれくらいあるのか、ということが心配された。結局、いずれも幹事館ではあるが、3館の立候補があったということで、最低限の開催規模は確保できたのではないかと考えている。テーマも、広報、ラーニングcommons、展示とバラエティに富み、それぞれの企画に関心のあるSALA加盟機関のスタッフが参加できたと思う。そこでは設定さ

れたテーマに関する理解及び情報交換、また人的交流の誕生といった成果があったと推察できる。

次年度、事業として継続するかについては、まずは幹事会での今後の議論によることになるが、実施の前提としては、多くの図書館がOPEN館として手を挙げるか、あるいは行ってみたい図書館を推薦するかしてOPEN館をできるだけ多く立ち上げることが必要である。大きなテーマでなくともよい。身近なちょっとした工夫について他者の評価を聞いてみたい、そんなことから始めればよいのではないだろうか。

SALAの設立は、加盟機関相互の交流の活性化がその大きなモチーフとなっていたはずだ。このOLWはそれを体現するものとしての性格を強く持っていると思う。次年度はより大きな規模で開催されることを望んでいる。